

22) 日本の経絡治療の祖 岡部素道の功績について

The Great Acupuncturist Sodo Okabe Who Pioneer of Meridian Acupuncture Treatment in Japan

鶴見大学 別部智司, 三浦一恵, 山崎ひろ子, 戸出一郎, 河原 博

Satoshi Beppu, Kazue Miura, Hiroko Yamazaki,
Ichiro Tode and Hiroshi Kawahara, *Tsurumi University*

日本の鍼灸界において、経絡を用いた治療は多数あるが、経絡治療を確立して後世に広めた人物として岡部素道が挙げられる。今回は岡部素道の人物像を紹介して、主に顎顔面領域における功績について概要を紹介する。

岡部素道は1907年(明治40年)11月20日：富山県東砺波郡平村に生まれ、福治と命名された。

1930年(昭和5年)：東京鍼灸医学校入学(両国)。

1931年(昭和6年)：鍼灸資格試験に合格。柳谷素霊門下に入る。

1932年(昭和7年)：鍼灸院の求本堂(後の聖和堂)を開業。

東京鍼灸医学校の講師となる。

1933年(昭和8年)：「古典に於ける補瀉論に就いて」を発表。

1936年(昭和11年)：日本大学専門部宗教学科卒業。

1939年(昭和14年)：「新人弥生会」(現在の経絡治療学会)を発足、会長、代表となる。

1950年(昭和25年)：(社)日本鍼灸師会理事就任。

1957～71年(昭和32～46年)：東京都鍼灸師会会長就任。

1958～71年(昭和33～46年)：国際鍼灸治療学会会長就任。

1965年(昭和40年)：第1回国際鍼灸学会(東京)にて国際鍼灸学会会長に就任。

1969年(昭和44年)：第2回国際鍼灸学会(パリ)にて、功労賞受賞。

1971年(昭和46年)：紫綬勲章受賞。

1972年(昭和47年)：北里研究所付属東洋医学総合研究所鍼灸部長就任。

1973年(昭和48年)：日本経絡学会を結成、会

長就任。

1978年(昭和53年)：勲四等旭日小綬章受賞。

1984年(昭和59年)6月24日：永眠。

東京教育大学、筑波大学非常勤講師など学校教育にも携わる。

著書として「鍼灸折々の記」、「鍼灸経絡治療」、「鍼灸治療の真髓」などが挙げられる。

元来、経絡治療は患者個別に治療を打立てる古典的治療法で非常に習得し難かったが、岡部は経絡治療の裾を広げる為に、初心者にも解るように説いた。東洋医学四診法(望診、聞診、問診、切診)特に切診の脈診の重要性と陰陽五行説の関連を紐解き、標治法、本治法に分け要穴を提示して「診断即治療」の原則を画一させた。

顎顔面領域の鍼灸経絡治療の応用では「鍼灸経絡治療の真髓」によると第3章「身体各部の疾患と治療の実際」では顔面の疾患の項目として顔面麻痺、三叉神経痛、疼痛、鞭打症、顔面神経麻痺、顔面筋痙攣が記載され、目・鼻・咽喉の疾患の項目として遠視、ベーチェット病、角膜炎、仮性近視、鼻炎、感冒、蓄膿症、耳聾、難聴、中耳炎、咳嗽が記載されている。

岡部素道の間人像は物静かで穏やかな性格であり、それでいて物事には真直ぐ立ち向かって行く信念を持ち、他人の発想、価値観を尊重して人の性格をつかみ、仕事における適正を引出す能力を持っていた為「人事の岡部」と言われた。

そのような人柄もあり、治療者-患者関係は常に良好であり財界、政界、芸術界の著名人が患者として多く締め、多くの門下生が師をしたって弟子入りしていた。

参考文献

- 1) 岡部素道：鍼灸経絡治療，積文堂出版，東京，1974.
- 2) 岡部素道：鍼灸治療の真髄—経絡治療五十年—，積文堂出版，東京，1983.